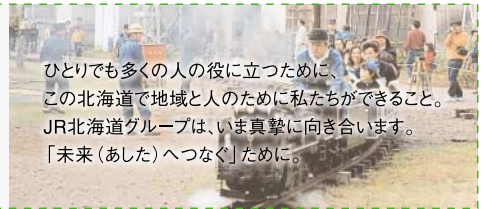


あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み①】



ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



道内におけるポイント不転換防止装置の設置状況は「圧縮空気式ポイント除雪装置」が103カ所、「ポイント融雪ピット式」が57カ所、「ポイントパネルヒーター」が156カ所(平成22年度)。10月に新しく旭川駅が高架駅として開業し、設置個数が一気に増加

ポイント不転換を防止する三つの対策により 冬に強い鉄道輸送を目指す!

鉄

道会社にとって欠か
せないのが安全・安
定輸送の確保。北国の場合、
特に冬期間においては優先
的に取り組まなければなら
ない最重要課題です。

JR北海道では、そのひと
つとしてポイント不転換の
防止対策に力を注いでいます。
列車の進路を転換するポイ

ントが何らかの障害により
切り替わらない、つまりポイ
ント不転換が生じると列車
はそこを通過できず、その路
線だけでなく、ダイヤ全体に
影響が及ぶこともあります。

レールに密着して機能す
るポイントにとって、最大の
敵はレールとの隙間にたま
る雪。降雪対策としてレール

ル自体にヒーター
を設置してい
ますが、わずか
な雪で不転換を
引き起こすポイ
ント部分にはさ
らなる対策が必
要です。

ひとつくに雪
と云っても、列
車の床下から落
下したり、列車
によって押し込
まれたりと、さ
まざまな形でポ
イント部分に持

「ポイント融雪ピット式」は、JR北海道が独自に開発した設備で特許も取得



ポイントに堆積する雪や氷塊を効果的に融雪する「ポイントパネルヒーター」

ち込まれるため、たとえ晴れていても油断は禁物。そうした状況を踏まえ、JR北海道では平成七年より三つの装置を導入してきました。

そのひとつが「圧縮空気式ポイント除雪装置」です。これは、レールとポイントの隙間にたまった雪や氷塊を空気力で吹き飛ばす設備。圧縮した空気を使うので、瞬時に雪や氷塊を取り除くことができます。二つ目はポイントの下にコンクリートのピット(空間)を設け、

積もった雪をピットに落とし、なおかつヒーターで融雪する仕組みの「ポイント融雪ピット式」。そして、三つ目の「ポイントパネルヒーター」はポイント部分の特に雪がつまりやすい箇所を設置し、雪や氷塊を効果的に溶かす役目を担っています。

もちろん、それらを導入しても、一〇〇万全ではありません。予測できないほどの大雪のため、これらの装置では対処できないこともあります。もちろん、ポイント不転換が発生すれば速やかに指令センターから最寄り駅へと情報が伝わり、人力によって処理されますが、念入りに打ち合わせを行うなど、作業員の安全には細心の注意を払っています。

ただ、新たな対策により現場への出勤回数は減少しており、結果的にそれが安定的な鉄道輸送と作業員の安全確保へとつながり、大きな成果を生み出しています。